

レジメン名

BEV+CDDP+PEM

出典 J Clin Oncol.2013;31:3004-3011
アリムタ適正使用ガイド

実施部署区分

■入院 ■外来 □処置

対象疾患

非肩平上皮肺がん

☒ 進行・再発
☐ 補助療法(術前・術後)
☐
☐
 原則PSO-1を対象とする

投与減量の基準(シスプラチン・ペメトレキセド)

・ANC<500/mm³かつPlt≧5万/mm³
 ・Plt<5万/mm³
 ・ANC<1000/mm³かつ38.5℃以上
 ・その他G3以上の非血液毒性で減量が必要と主治医が判断した場合
 →前コースで上記のいずれかを満たすとき75%doseに減量。
 ・Plt<5万/mm³かつ出血を認めるとき50%doseに減量。
 ・入院を要する下痢を認めるときペメトレキセドのみ75%doseに減量。
 ・G3-4の粘膜炎を認めるときペメトレキセドのみ50%doseに減量。
 ・末梢神経障害≧G2の場合シスプラチンのみ50%doseに減量。

投与中止の基準

ANC	1500/mm ³ 未満	PLT	7.5万/mm ³ 未満*
Hb	8.0g/dL未満*	CLcr	45mL/min未満
AST,ALT	120IU/L以上*	T-bil	1.8mg/dL以上*
*肝転移がある症例では、AST,ALT 200IU/L以上、T-bil 3mg/dL以上とする。			
その他	G3以上の非血液毒性(脱毛と神経毒性を除く)		

※出典ではPlt 10万/mm³未満、Hb 9.0g/dL未満だが、制限が厳しいためGrade2の血液毒性として上記の値で登録

1クール期間 21日

(次のクールまでの標準期間)

総クール数 4クール

 4クール後
 BEV+PEMのみで
 維持療法

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1, d8等)
ペバシズマブ	7.5mg/kg	NS100mL	90分 ^{※2} (30分まで漸減可)	d1
ペメトレキセド	500mg/m ²	NS50mL (全量80mL以下)	10分	d1
シスプラチン	75mg/m ²	輸液適量 計500mL	120分	d1
※2 初回は90分、忍容性があれば2回目は60分、3回目以降30分に短縮可				
ペメトレキセド投与1週間以上前～最終投与日から22日目まで、葉酸0.5mg/日を連日経口投与とビタミンB12 1mg/回を9週間毎に筋注。				

 1日投与順
 (経時的にプレ Medikation・ポスト Medikation、溶解液まで含む)

day1
 ①生食50mL(ルート確保)
 ②ペバシズマブ7.5mg/kg+NS100mL(90分^{※2})
 ③生食50mL(フラッシュ)
 ④パロセトロン0.75mg/バック+デキサート9.9mg(15分)
 ⑤生食50mL(フラッシュ)
 ⑥ペメトレキセド500mg/m²+生食(100mL)50mL(10分)
 ⑦生食50mL(フラッシュ)
 ⑧硫酸マグネシウム 4mL+リデム3A 500mL(60分)
 ⑨マンニトール250mL(30分)
 ⑩シスプラチン75mg/m²+輸液適量計500mL(2時間)
 ⑪硫酸マグネシウム 4mL+リデム3A 500mL(60分)

<内服>

day1-3
 アプレピタントカプセル(125-80-80)
 day1はペメトレキセドの1時間前、day2,3は朝食後
 day1-4
 オランザピン5mg 夕食後
 (糖尿病は禁忌、高齢者は2.5mgへ減量を考慮するなど慎重に投与)
 day2-4
 デカドロン8mg

<維持療法>

①生食50mL(ルート確保)
 ②ペバシズマブ7.5mg/kg+NS100mL(90分^{※2})
 ③生食50mL(フラッシュ)
 ④デキサート6.8mg+生食100mL(15分)
 ⑤生食50mL
 ⑥ペメトレキセド500mg/m²+生食(100mL)50mL(10分)
 ⑦生食50mL